

令8 高等学校書道（6枚のうち1）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

一 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

中国の殷や周時代、王や諸侯のもとで、占いや青銅器の製作に従事した人々を中心に使われていた、甲骨文や（①）は、一般的人がほとんど目にする機会のない神聖な文字であったと考えられている。その後、春秋・戦国時代になると文字を使う人や用途が増え、それぞれの国で文字が青銅器に铸造された。さらに、石や玉、竹や木や絹に筆で書くことが広まるに、字形や文字の使い方に混乱が生じるようになつた。中国を統一した秦の（②）は、この混乱を正すため、自分の国で使用していた文字を公用の書体に制定し、各地に広めた。

一方で全国に配置した役所との間で大量の文書を処理することが必要となつた。役人には、戦国時代に自分の国で使用していた（③）を速く書くための実用書体の使用も認めた。それらの文書は細長く切った竹の札や木片の狭い部分に大量に速書きするため、点画は直線的になり、波勢のリズムが備わるようになつた。これが隸書である。続く前漢時代になると、（③）の速書きから生まれた隸書は、波勢を強調した筆使いが特徴の（④）という様式に結晶された。そして後漢には後世に伝えることが目的である碑にも多く用いられるなど、（③）に代わる新たな公用書体として極まつた。

問一 文中の（①）～（④）に入る適切な語句を、それぞれ漢字で書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

（1）次の図版Aは動物のサイを象った青銅の容器の内面に鋳込まれた銘文である。図版Aの作品名と、その釈文中の（⑤）、

（⑥）に入る適切な漢字を、それぞれ楷書で書きなさい。



図版A



図版B

問二 線部Iについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）次の図版Aは動物のサイを象った青銅の容器の内面に鋳込まれた銘文である。図版Aの作品名と、その釈文中の（⑤）、

（⑥）に入る適切な漢字を、それぞれ楷書で書きなさい。



図版C

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問五 線部IVについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）次の図版D、Eの作品名を、それぞれ漢字で書きなさい。



図版E

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



図版D

問四 線部IIIについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）下の図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。



令8 高等学校書道（6枚のうち2）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

問三 — 線部Ⅱについて、あとの図版C～図版Hを見て、次の問いに答えなさい。

- (1) 図版Cの作品名を、漢字で書きなさい。また、図版Cは神龍半印本といわれる模本である。この模本を制作したとされる人物名を、漢字で書きなさい。

- (2) 図版Cに押印されている、書画などが鑑賞や収藏されたことを示すために押す印を何というか、漢字で書きなさい。また図版Dは、図版Cに押印されている、ある皇帝が收藏したことを示す印である。その皇帝として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 嶋帝 イ 高宗 ウ 康熙帝 エ 乾隆帝

- (3) 印を制作する適切な工程の順番として、次のア～カを並び替え、その符号を順に書きなさい。

ア 運刀 イ 印箋に押す ウ 布字 エ 選文・検字 オ 印稿を作る カ 押印・補刀

- (4) 図版Eは、図版Cに関連するある場面を絵画のテーマとして描いた作品である。この絵画の作者で台東区立書道博物館を開館した人物名を、漢字で書きなさい。

- (5) 図版F、Gは王羲之の作品を臨書した作品である。作品を書いた人物名を、それぞれ漢字で書きなさい。

- (6) 王羲之を典型とし、漢・魏・六朝時代の名家の優劣を説き、書の本質や技法を論じている、唐時代に草書で書かれた作品名とその作品を書いた人物名を、それぞれ漢字で書きなさい。またその人物が述べた文として適切でないものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 隸は、精にして密なるを欲す。

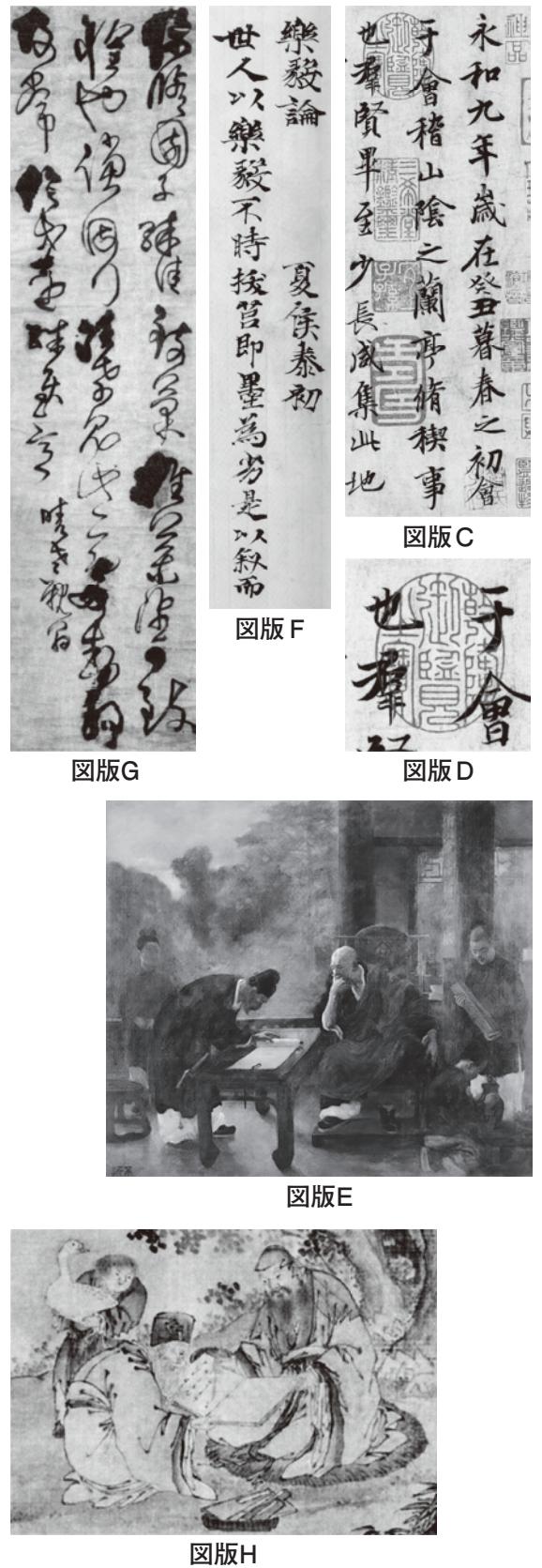
イ 真書は平和を以て上と為す。

ウ 篆は、婉にして通なるを尚ぶ。

エ 意は先んじ筆は後にす。

- (7) 図版Hの作品名と図版Hが所蔵されている施設の組合せとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 王羲之書扇団・京都国立博物館 イ 王羲之觀鵝団巻・メトロポリタン美術館
ウ 王羲之換鷺団・神戸市立博物館 エ 王羲之団・京都国立博物館



図版H

三 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

漢字の正確な伝来時期は不明であるが、紀元前後の文字を鋳込んだ中国製の貨幣や漢委奴国王印を代表とする（①）がわが国古墳などから出土している。6世紀半ばでは、中国から仏教が伝来すると經典も伝わり、7世紀には紙に書かれたわが国現存最古の肉筆「（②）」ほか大量の經典が書写されるようになった。

八九四年に（③）が廃止されると、日本の文化は國風化が進んだ。書においても、長い年月をかけて吸収した中国書法の上に、日本の風土や日本人の感性が反映されるようになった。また、三跡が現れ、日本独自の書風が完成した。

問一 文中の（①）～（③）に入る適切な語句や作品名を、それぞれ漢字で書きなさい。

問二 — 線部I、IIについて、次の問い合わせに答えなさい。

- (1) — 線部Iについて、国風文化の発展は平安時代のいつ頃を指すか、解答欄に合うように漢字一字で書きなさい。

- (2) — 線部IIについて、三跡の登場により、発展・完成した日本的な書風を何というか、漢字二字で書きなさい。

問三 左の図版Aは「久隔帖」である。この作品を書いた人物名と、その釈文中の（④）～（⑦）に入る適切な漢字を、それぞれ楷書で書きなさい。

久隔清音馳忘忘極傳承

安和且慰下情

大阿闍梨所示五ハ詩序中有

図版A

【釈文】

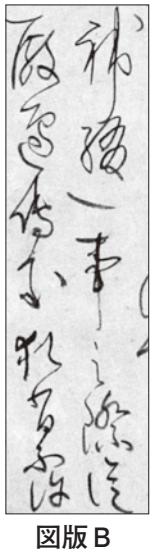
久	隔	清	音	馳	（④）	無	（⑤）	傳	承
安	和	且	慰	下	情				
大	阿	闍	（⑥）	所	示	五	八	詩	序
百	廿	禮	佛	并	方	圓	圖	并	注
									（⑦）

一百廿禮佛并方圓圖并注

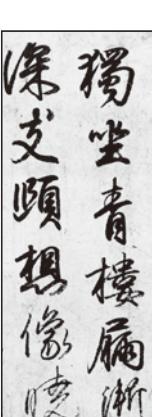
令8 高等学校書道（6枚のうち3）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

問四 次の図版B～Gについて、これらの作品を書いた人物名を、あとのア～カからそれぞれ選んで、その符号を書きなさい。また、作品名をそれぞれ漢字で書きなさい。



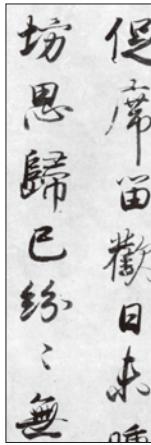
図版B



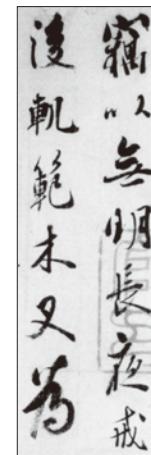
図版C



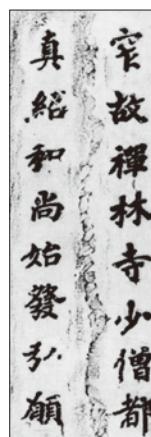
図版D



図版E



図版F



図版G

ア 嵐峨天皇 イ 小野道風 ウ 藤原佐理

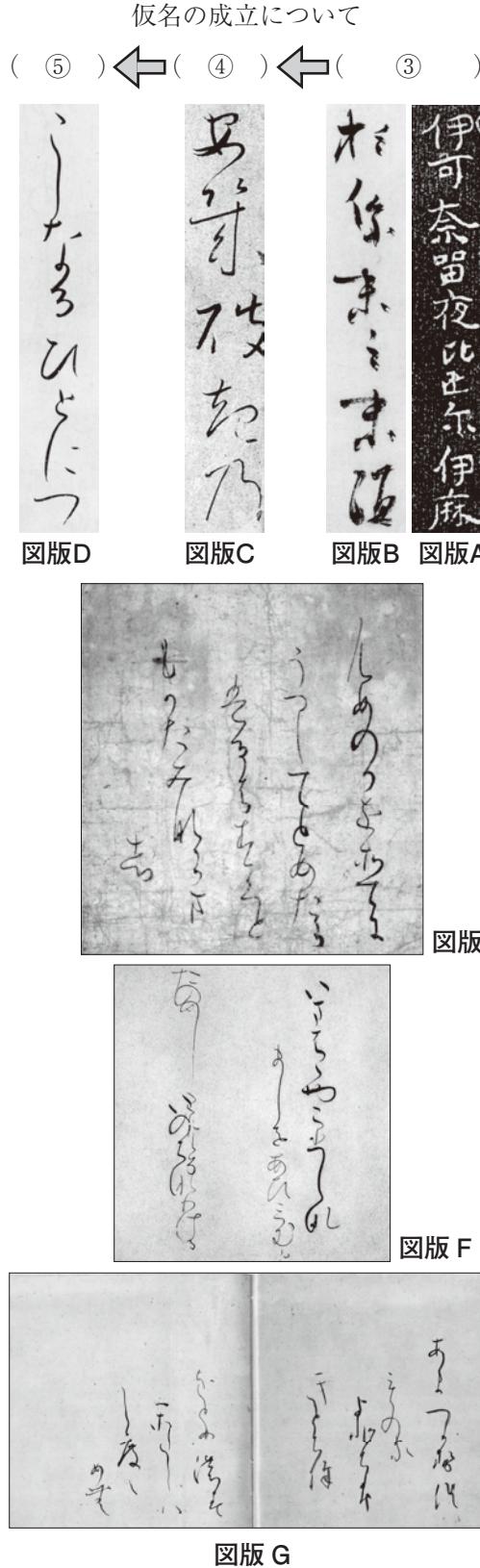
エ 伝橋逸勢 オ 藤原行成 カ 藤原敏行

問五 鎌倉時代中頃に書かれた、宋、元時代の書法の影響を受けながらも個性的な書を特色とする禪僧が書いた書のことと何というか、漢字二字で書きなさい。
問六 江戸時代、尊円親王が創始した流派で江戸幕府の公用書体として起用されていたものを何というか、漢字三字で書きなさい。
問七 江戸時代後期になると「幕末の三筆」と称される人物らが登場する。そのうち二人の人物名を、それぞれ漢字で書きなさい。

四 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

中國から漢字が伝わると、文字を持たなかつた私たち日本人の祖先は漢字の音を借りて自分たちの言葉を書き記すことを始めた。これが仮名の起りである。漢字が（①）と呼ばれたのに對し、仮の字という意味から仮名と呼ばれた。この仮名は後に、意味に関係なく表音文字として歌集に使用され、（②）とも呼ばれた。仮名といつても、最初は図版A・Bのように漢字の楷書や行書で書かれており、（③）と呼ばれた。平安時代に入ると次第に図版Cのような草書で書かれるようになり、（④）と呼ばれ簡略化が進んだ。また、（③）に対し、平安時代中期になると字源の姿が分からぬほどに略された仮名として、図版Dのような（⑤）が生まれ、日本人独特的の造形である優美な仮名へと開花していった。

仮名の美しさといえば、連綿^Iが生み出す流れの美しさ、墨の潤渴による美しさ、そして、それらを支える線の多様な美しさといえる。文字が簡素なだけに、連綿によつてさまざまな表情が生まれ、字源の異なる文字を用いることでさらに変化が加わる。墨継ぎの場所や墨を継ぐテンポを変えたり、行構成を変えたりすれば、無限に表現の幅が広がる。このようなどころに、仮名の藝術としての可能性が潜んでいる。



問一 文中の（①）～（⑤）に入る適切な語句を、それぞれ漢字で書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。また、

図版A、Cの作品名を、それぞれ漢字で書きなさい。

問二 一線部Iについて、次の問い合わせに答えなさい。

（1）一線部Iの表現技法を、簡潔に説明しなさい。

（2）図版Hと同じ分類とされる連綿線を、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。



図版H

問三 一線部IIについて、次の問い合わせに答えなさい。

右の図版E～Gは散らし書きの代表的な作品である。これら三つの作品を総称して何と呼ぶか、漢字で書きなさい。

図版E～Gの一行目について、すべての仮名の字源を、楷書で書きなさい。

図版E～G、それぞれの作品名と伝承筆者名を、それぞれ漢字で書きなさい。

（4）（3）（2）（1） 次の図版Hと同じ分類とされる状態のものを何というか。また、元はどのような装丁であったか、それぞれ漢字で書きなさい。

令8 高等学校書道（6枚のうち4）

（解答はすべて、解答用紙に記入すること）

問四

——線部Ⅲについて、次の問いに答えなさい。

- (1) さまままな装丁の作品が存在するが、古人の筆跡を厚手の折帖に貼り込んだものを何というか、漢字で書きなさい。
 (2) 書画を床の間などの壁面で鑑賞するために仕立てた装丁のものを何というか、漢字で書きなさい。

五

次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

漢字や仮名、漢字仮名交じりの書の表現や鑑賞の活動の中で、書くことそのものに喜びを感じたり、筆で書かれる線や形の面白さを発見したり、先人の創意や工夫の跡に気づくこともある。また、古典の筆跡や現代の作品に、思わず見入ってしまうこともある。書は（①）という特質をもつて言葉を書き記す芸術であることから、書かれた過程や書きぶりを読み解くことで、作者が費やした時間や運動を追体験したり、思考や（②）を共有することも可能となる。書を理解することは、書の持つ（③）や（④）、文字としての機能を超えた（⑤）と、作者の思考や（②）が融合することで、にじみ出る（⑥）をとらえる、つまり、書の美の本質に迫ることである。

問一 文中の（①）～（⑥）に入る語句として最も適切なものを、次のア～カからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

ア 表現性 イ 運動性 ウ 一回性 エ 時間性 オ 風趣 カ 力 感興

問二 ——線部Ⅰについて、次の文章の（⑦）～（⑩）に入る適切な語句を、それぞれ漢字で書きなさい。

漢字仮名交じりの書では、作品の表現の工夫の一つとして、固形墨の墨色による変化を用いて作品制作を行う。固形墨には、植物油を燃やして出る煤を使った（⑦）墨と、松を燃やして出る煤を使った（⑧）墨がある。中国製のものを（⑨）墨、日本製のものを（⑩）墨とよぶ。

問三 ——線部Ⅱについて、あととの図版A～図版Cを見て、次の問い合わせに答えなさい。

(1) 図版Aは、安土桃山・江戸時代に活躍した人物が書いた書状である。この書状を書いた人物名を、漢字で書きなさい。また、この人物は、「（⑪）の三筆」の一人である。（⑪）に入る適切な語句を、漢字で書きなさい。

(2) 図版Bは、青木香流の作品である。作品の跋文を書きなさい。なお、漢字は楷書で、仮名は平仮名で書きなさい。

(3) 図版Bの表現の工夫として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 文章を一つのまとまりで書き、それぞれの文字の大小を極端につけることで作品に変化を与えていた。
 イ 濃墨でたたきつける筆使いから、力強さを表現している。
 ウ 古典を生かした表現として、円筆を用いて切れ味を出している。
 エ 軽やかな線の運動や、空間を広くとることで、明快な印象を与えていた。

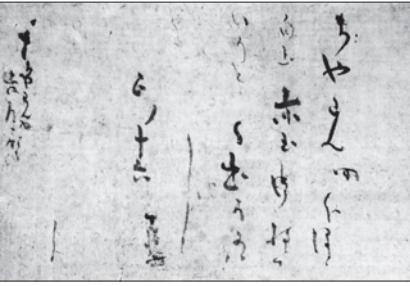
(4) 図版Cを書いた人物名を、漢字で書きなさい。また、この人物の出身地であり、記念館がある都道府県名を、漢字で書きなさい。

問四 本年、奈良国立博物館では開館一三〇年記念特別展として「超国宝－折りのかがやき－」が開催された。奈良国立博物館で所蔵されている国宝を、次のア～オから一つ選んで、その符号を書きなさい。また、奈良県は、和歌集等で詠まる舞台が多く存在する。兵庫県出身で、「かなどうた」を創刊し、大字仮名の推進普及に貢献し、歌人としても活躍した書家の人物名を、漢字で書きなさい。

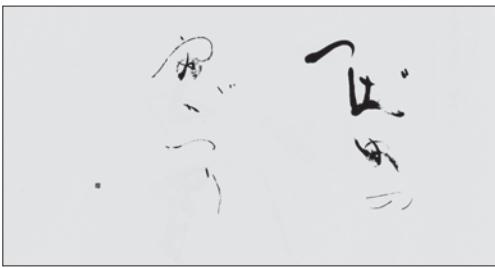
ア 金光明最勝王経（国分寺経） イ 永尊書状 ウ 雜筆集 エ 明月記断簡 オ 足利義満書状案

問五 次の図版D、Eは、生活の中の刻字の書とその刻された書の断面のイメージ図である。各図版の刻し方として適切なものを、次のア～エからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

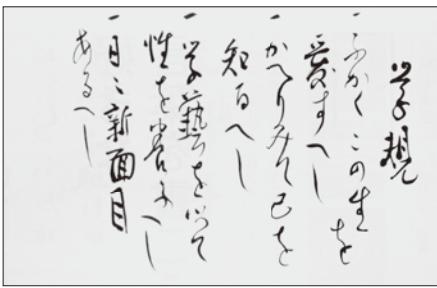
ア 筋刻り イ かまぼこ刻り ウ たたき刻り エ 船底刻り



図版A



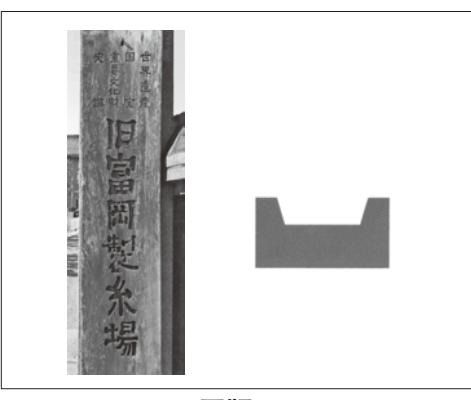
図版B



図版C



図版D



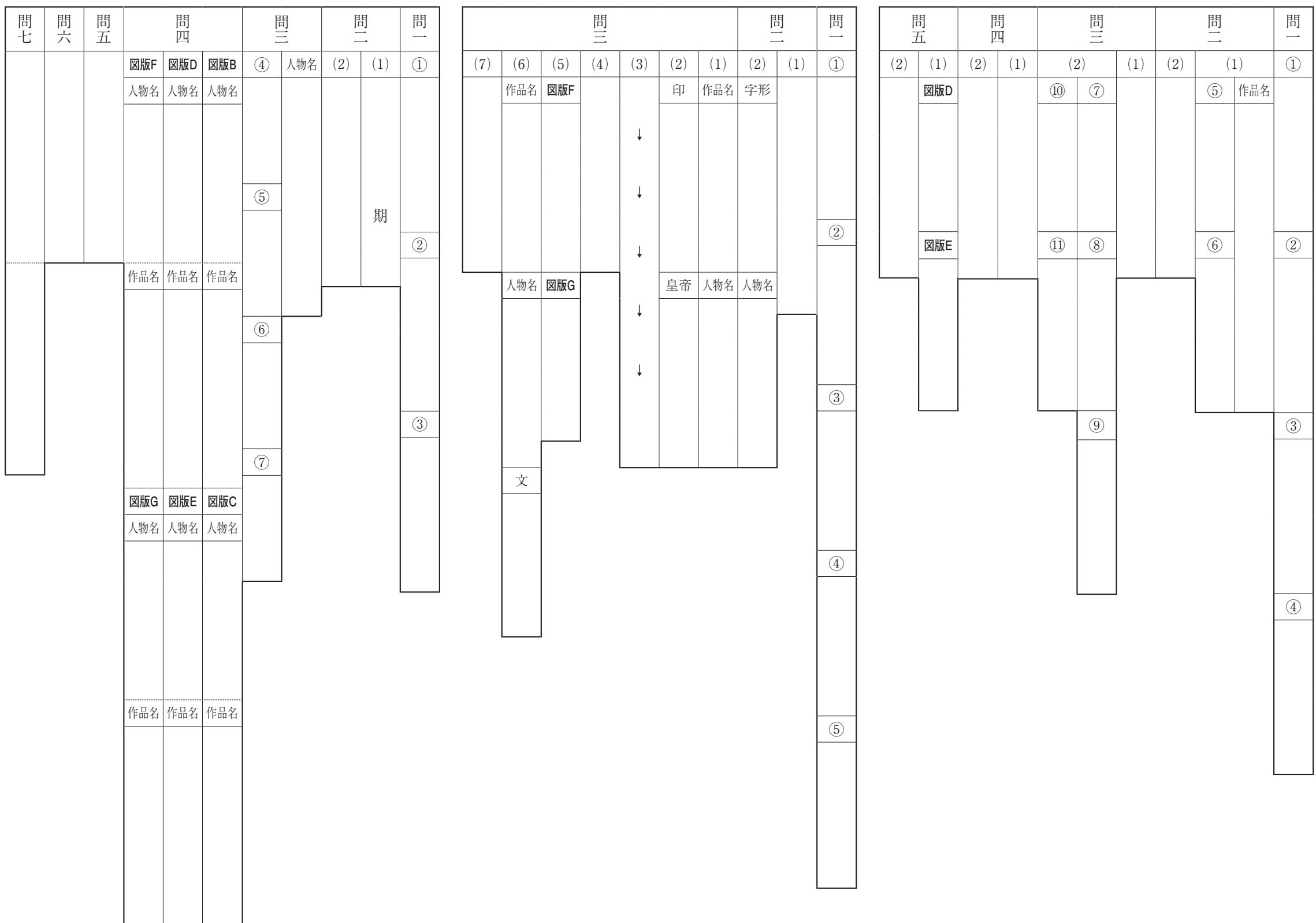
図版E

令8 高等学校書道解答用紙 (6枚のうち5)

(6枚のうち5)

總計

道書

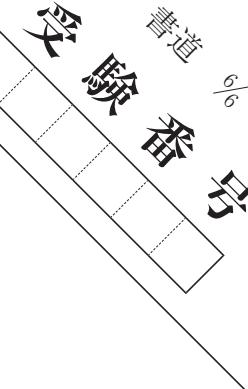


—
—
—

—

—

令8 高等学校書道解答用紙 (6枚のうち6)



書道

四

問四			問三				問二		問一		
(2)	(1)	(4)	(3)			(2)	(1)	(2)	(1)	図版A	①
		分割	図版G	図版F	図版E					説明	
			作品名	作品名	作品名						②
											③
										図版C	④
											⑤

四

--	--	--	--	--

五

問五	問四	問三			問二	問一	
図版D	国宝	(4)	(3)	(2)	(1)	⑦	①
		人物名		篆文	人物名		
						②	
						⑧	
						③	
						⑪	
						⑨	④
						⑤	
						⑩	
						⑥	

五

--	--	--	--	--

令8 高等学校書道模範範解答（6枚のうち5）

総計
200

解説

問一	問二	問三	問四	問五
(1)	(1)	(1)	(1)	(1)
金文	肥筆	泰山刻石	張遷碑	何紹基
始皇帝	小臣船穀尊	水平	逆筆（藏鋒）	均一（均等・一定）
篆書	五	垂直	縦長	⑩ ⑦
八分（八分隸）			居延漢簡	⑪ ⑧
			泰山刻石	礼器碑

一 36

問一	問二	問三
(1)	(1)	(1)
墓誌銘	方筆（方勢）	印
牛齋造像記	蘭亭序	鑑藏印
太宗	馮承素	中村不折
歐陽詢	趙之謙	光明皇后
虞世南		孫過庭
褚遂良		王鐸
		文
		イ

二 40

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七
(1)	(1)	(2)	(1)	(2)	人物名	図版F 図版D 図版B
金印	中 期	最澄（伝教大師）	恋（戀）	ア 工 ウ	人物名 人物名 人物名	市河米庵（巻菱湖・貫名菘翁）
法華義疏	和 様	中村不折	極	光 定 戒牒	伊都内親王頤文	御家流 墨跡
遣唐使	梨	光明皇后	工 ↓ 才 ↓ ウ ↓ ア ↓ 力 ↓ イ	国申文帖（女車帖）	光定戒牒	卷菱湖（貫名菘翁・市河米庵）
	義	王鐸		孫過庭	神護寺鍾銘	神護寺鍾銘
		馮承素		文	白氏詩卷	白氏詩卷
		趙之謙		イ	屏風土代	屏風土代

三 42

令8 高等学校書道模範解答 (6枚のうち6)

書道
模範解答

模範解答

四

問四		問三					問二		問一		
(2)	(1)	(4)	(3)			(2)	(1)	(2)	(1)	図版A	①
		分割	図版G	図版F	図版E	无				説明	
			作品名	作品名	作品名	女				真名	
		手鑑	継色紙	升(秆)色紙	寸松庵色紙	乃				②	
		断簡				可				万葉仮名	
						遠				仏足石歌碑	
		装丁	伝承筆者	伝承筆者	伝承筆者	所				③	
						天				男手(真仮名)	
						尔				④	
		冊子本	小野道風	藤原行成	紀貫之					草仮名	
										秋萩帖	
										⑤	
										女手	

文字と文字とをつなげて書くこと。

五

問五	問四	問三			問二	問一	
図版D	国宝	(4)	(3)	(2)	(1)	⑦	①
イ	ア	人物名	人物名	人物名	人物名	ウ	
		工	工	つ	本阿弥光悦	油煙	
				ば			
				め			
				の			
				宙			
				が			
				へ			
				り			
				寛永			
				11			
					松煙		
						唐	
						イ(王)	
						イ(王)	
						ア	
						ア	
						和	
						才	